

Leaders TOPICS

「植物との触れ合い」の勧め

代表理事 吉岡嗣二郎



■植物との係わり

植物に関する講座を行っているせいで、「植物が好きなんですか」または、「植物のことを研究されていたんですか」と言われます。確かに自宅には、植物に関する図鑑やシリーズ化された解説本などでいっぱいですが、特別に「植物が好きである」とか「植物研究者」を意識したことはありません。ただ振り返ってみると身近に植物との「触れ合いがあった」と言えるかもしれません。幼い頃に実家では林業を行っていて近くに製材所があり、炭焼き窯はいたるところにありました。時が流れ、林業は廃れ実家を離れると直接的な植物との付き合いはなくなりました。

植物との係わりができたのは、仕事として公園管理業務を行ったことです。来園者の方に植物の名前や特徴を話す機会が多くなり、公園の近くの学校へ授業などで行くこともありました。これらのことから、当会(神奈川県環境学習リーダー会)において植物の講座を実施することになりました。NHK で数年前、植物学者・牧野富太郎をモデルにした「らんまん」が放送されたせいか、講座でも植物に興味を持つ人が増えたように思います。

■植物ジュニアレンジャー講座のポイント

当会で実施している講座は子どもたちを対象とした「めざせ植物ジュニアレンジャー」と「植物ジュニアレンジャー活動」です。この講座の進め方は、「観察」、「解説」、「伝える」ことを主体に進めています。

●「**観察**」においては詳しく見る「ウォッチング」です。このことにより、気がつかなかった別の世界が見えてきます。例としてイチヨウの葉脈を見ると全て二股脈になっていて、太古の姿(原始葉脈)をそのまま今に残していることが分かります。また桜では、花以外の葉の付け根あたりに蜜腺(花外蜜腺)があり、蜜を求めた蟻が葉を守る役割を見ることができます。

●「**解説**」のポイントは植物の知識を伝えるのではなく、その生態の面白さを「感じてもらう」ことにしています。例えば「植物には、動物と違い口がなく食べ物を食べません。どうして大きくなる(成長する)ことができるのでしょうか?」などと問います。その答えとして「植物のほとんどは、太陽の光と、空気と水を使って、自分で自分の体を作ります」などと解説します。



植物と触れ合い講座

●「**伝える**」では「センス・オブ・ワンダー」という言葉があります。自然など自分が目にしたり、触れたりすることにより、その神秘さや不思議さに感動する「感性」のことを言います。また、作家の石井桃子さんの言葉にも、「子どもたちよ、子ども時代を、しっかりと楽しんでください。おとなになってから、老人になってから、あなたを支えてくれるのは子ども時代の『あなた』です。」とあり感動は重要です。「伝える」ことのポイントは感動からの続きで、これを他の人にも伝えることにより自然の豊かさ、不思議さ、面白さを「共有」することにあります。

■四季折々の草木を楽しむ

自宅の近くに通称「レンガ道」と呼んでいる緑道があります。ここを散歩しながら観察などをしてしていると話しかけられることがあります。ほとんどの方の質問は「何か珍しいものがあるんですか?」です。このレンガ道は特別なものではなく、四季折々の草木を楽しむことができます。6月初旬のこの時期は美しいアジサイを見ることができます。日常のゆるやかな変化とともに四季の変化を楽しみながら1.2kmほどの道を往復しています。



大津から馬堀海岸への緑道

